

東教大 筑波移転の検討再開

文学部は又キで

きょうから 委員一新、一年ぶり

東京教育大学はきょう二日、筑波移転後の新大学構想を企画、立案するマスタープラン委員会(通称MP委)を、文学部不参加のまま約一年ぶりで再開する。大学側はこのMP委再開に踏み切ったのは、執行部が●移転再問題が一度落ち着いた●移転計画を早急にまとめる必要があると判断したためだが、さらに「文学部との関係は不可能に近い」と、意見統一したためとみられる。これで新大学構想は文学部の考え方は無関係に進められることになるが、学園争いの火タネがもとより移転問題にからんでいただけに、新聞面、学生などが受けとめるかが注目される。

MP委はさる四十一年七月、各学部評議員、学長が理事、教授、事務局長、学生部長の二十五人をメンバーとして発足したが、文学部

は最初から移転反対で、MP委にも不参加を表明、同学部を定員に加えない要請的なものだった。MP委はその後、総合大学のビジョンなどを審議したが、昨年六月筑波移転撤回、MP委解散など学生が要求してストップ、これに入ったため活動がストップ、これに入ったため責任をとった各評議員の総辞職がからんで事実上「解体」した形になっていた。

今度は評議員、学生部長、事務局長など二十五人中十三人が交代、新発足の形で活動を再開する。しかし、文学部は現在もお強く移転に反対、一方、MP委も「審議に協力しなければ、定員には加えられない」としてお

り、歩みよりの気配はほとんどない。

MP委では、先月末までに移転賛成派の一本学の正常化と発展を期する会がまとめた大学部門強化や研究施設充実の総合大学設立構想を中心に検討、早速議員提案を審議、評議会へ報告する方針だが、さる二月二十八日の機

動議導入以来賛成、反対両派の対立は一段と鋭くなっている。飛騨には結核、理、数、農、体四学部と前大付属の光学研究所の意向を強く反映した新大学構想がまとめられることになりそうだ。

ある執行部員はMP委の再開について「オプザバー」として、MP委に文学部の賛成派教授が出席することは拒まない」といっているが、感情的対立にまで発展している間ではあり、MP委の再開はさらに紛争の輪を広げそうだ。

東教大で学生と機動隊衝突

「評議会紛争」デモ
学園紛争が続いている東京教育大で、六日午後、機動隊などを派兵する反代々木派学生約百二十人が「評議会紛争」を叫んで東京・文京区大塚の大学本部に押しかけ、警備中の機動隊と衝突、女子学生一人を含む五人が公務執行妨害と都公安条例違反の現行犯で逮捕された。

学生たちはほとんどがヘルメットをかぶらず、傘や棒もたない「奇襲」の手口だったが、機動隊の隊列を突破して正門から大学構内にはいけると再三衝突してはばまれ、午後四時半許解散した。

モデル大学新設 文相意向

坂田文相は二十六日、新しい時代に対応する「国民に開かれた大学」のモデル大学を設立するため、近く佐藤首相にその趣旨を説明し、賛意などの援助を要請する意向を固めた。また、来月中旬にも「新大学設立準備委員会」(仮称)の設置を事務当局に命じ、委員を吹米副団に派遣して調査させたうえ、モデル大学の規模、機構など基本的な構想をまとめさせる

考えた。これは、「受けの塔」とは、大学会社組織)●既設の大学と融合させることによつて、その、長短を比較、新しい大学のあり方を方向づける―など。

シシシシシ

朝刊

5